

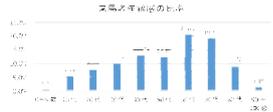
# 要旨

# ぼうしや調剤薬局 田寺東店



重複服用・副作用発現等を回避し、患者の医療安全を守るお薬手帳の啓発活動は保険薬局として重要な責務である。今回我々はお薬手帳の携帯率を高めるために、自己選択プロセスを取り入れた心理的なアプローチを試行し、その効果を検証した。

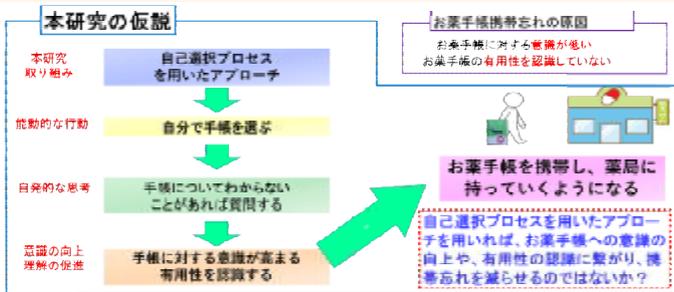
所在地:兵庫県姫路市  
月平均処方箋枚数: 1580 枚  
近隣医療機関科目: 内科  
薬剤師数: 4 名



## 背景

患者がお薬手帳を携帯し忘れる原因には、「お薬手帳への意識が低い」ことや、「有用性を認識できていない」こと等が考えられている。従って、お薬手帳の携帯忘れを減らすためには、**患者自らがお薬手帳への意識を高め、有用性を認識すること**が重要である。

当薬局では、以前からお薬手帳の有用性を啓発する活動を行ってきた。そのなかで、患者のお薬手帳への意識を向上させるための新たなアプローチとして「**自己選択プロセス**」(右図)の導入を考案した。お薬手帳の交付時に「自己選択プロセス」を取り入れることで、患者のお薬手帳に対する意識が高まり、結果としてお薬手帳の携帯忘れが減少するのではないかという仮説を立て、本取り組みにてその効果を検証した。



## 方法

### 自己選択プロセス効果検証試験

平成 27 年 1 月 ~ 5 月

1種類の手帳のみ交付  
(従来通り)

平成 27 年 6 月 ~ 10 月

自己選択プロセス導入  
(右図参照)



地域薬剤師会  
標準のお薬手帳



複数のデザイン  
(6種類)

自己選択プロセスの効果を検証するため、上記の試験をデザインした。

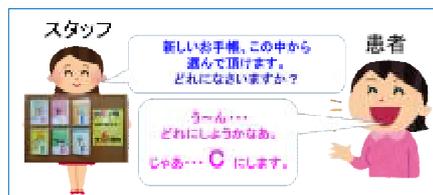
効果の指標には、お薬手帳携帯率を用いた。

(お薬手帳携帯率 = 手帳の携帯あり受付回数 ÷ 総受付回数)

H27 年 1 月 ~ 10 月の試験期間中、全受付患者のお薬手帳携帯有無を記録した。

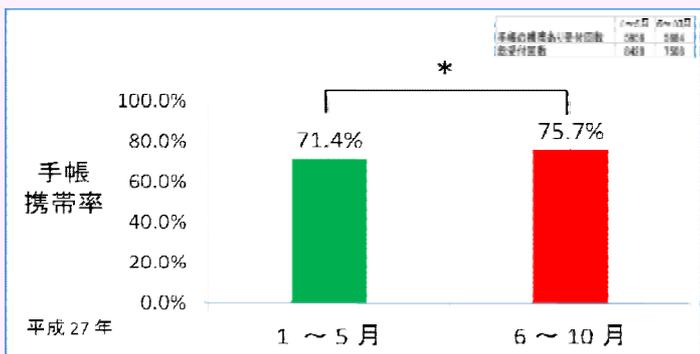
### 自己選択プロセス

お薬手帳の**新規作成・切り替え時**に、右図のボードを患者に提示し、6種類の中から好きな手帳を選んでもらった。



## 結果

### 取り組み前後における薬局全体の手帳携帯率



### 取り組みに対する反応

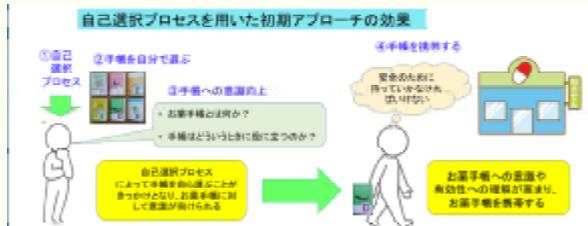


## 考察・総括

「6種類のデザインの中から、患者の好きな手帳を選んでもらう」という自己選択プロセスを導入した取り組みの前後において、全体の手帳携帯率は有意に上昇した。

また今回の取り組み導入後において、自己選択した患者から手帳に関する質問が多くみられた。このことは、相手(薬局)から手帳を渡されるという「受動的な行動」ではなく、自分(患者)が手帳を選択するという「能動的な行動」を経ることで、手帳への意識がより高まったためと考えられる。

本アプローチは、こうした「能動的な行動」を経た「自発的な思考」を促すことで、患者自身がお薬手帳への意識を高めるきっかけとなり、手帳の携帯率を向上させたことを間接的に示唆している。自己選択プロセスは、薬剤師によるお薬手帳啓発の「初期アプローチ」として有用な手段の一つといえる。



健康や治療に対するセルフケア意識の醸成という観点から、本研究のような患者による自己選択プロセスを取り入れた心理的なアプローチは、例えばジェネリック医薬品使用推進等、お薬手帳啓発以外の薬剤師活動においても、患者自身の能動的な行動を促すうえで有用な手段となる可能性がある。